

答

眞珠灣攻撃に就て日本がドイツに對し事前の通告をなしたといふ證據は見ることがありません。

歐州と太平洋との兩戰場間には非常な距離があります。兩戰場間に連合軍の兵力及物資を移動するに要する軍隊移動技術上の要素と長い時間とから見て、戰時的連絡調整から得られる報酬の一部を獲得する爲に樞軸國間の緊密な連絡調整をとる必要はありませんでした。一そんな事をしなくとも一同じ効果は連合國殊に合衆國の注意と物力とを二分する事によつて達せられたのです。

例へば豪州師團はエジプトから歸國せられ、ニウジールランドの物資は歐州戰場に來なくなり、英國及印度の兵力は印度に足望を喰ひしかも印度は英國の増援を受けました。合衆國物資の分割された相當の事はよく知れ渡つた事で更に説明する必要はありません。かような結果を達すべき連絡調整には殆んど何の相談も計畫も必要とせず、自動的に行はれたのです。

- 嚴密な調停の缺如は次の事實により指示されております。
- (A) 一九四一年十二月七日に日本はドイツ國に對し開戦の意圖あることを通告したかどうかの問題
- (B) ドイツ國はソ連と戦争状態に入つていたのであつて米國とは戦争状態に入つていなかったものであります。従つて嚴密な調停には日本がソ連に對する背面攻撃について考慮すべきことを含むべきであつたのであります。
- (C) 日本は浦鹽に向つて米國貨物兵器を輸送するソ連船舶へ米國よりソ連に引渡されたもの一大部分のものに對して嚴正な中立態度を維持いたしました。
- (D) 日本はベルマ以西に對する攻撃をすれば連會軍の資材を歐洲よりその方面に一層流通せしめようと思つた時に於いてもその方面の攻撃を最大限度に押し進めたものであります。
- (E) 通報及び作戰情報に關して嚴密な協力が行われたという證據は一つも私の眼に止つておりません。

デブトのスイエ地域に於けるドイツの主たる勢力は、それは中東を
破壊し、ソ聯邦を南部に衝いてゐたかも知れないのであるが、日本の
態度に壓迫を加へんとする意圖に充分協力したてでありませう。しかし
このドイツの勢力はなされなかつた又日本の勢力も同様であつた。